かさねの色目の花あそび　No.15

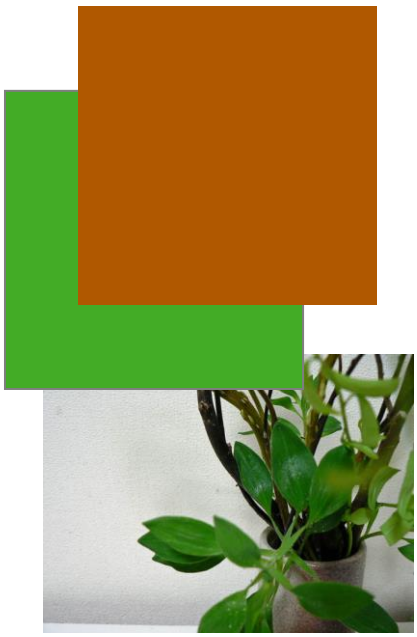
【色目】苦色　＜表：香黒味アリ　　裏：二藍＞

色としての「苦色（にがいろ）」は、香色（こういろ＝黄味がかった茶色）の黒味を帯びた色で、文字通り苦味のある色。色目としての「苦色」は、この色を表に、「二藍」（No.10参照）を裏にしてその効果を強調したものらしい。香色は丁子や香料の煮汁で染めた色で、色相が広い。「二藍」も、赤紫から薄い青に近い青紫まで幅広い色合いをカバーしている。

写真右上の花材は、黒っぽい香色に、枯れたヒペリカムの実と榊の葉（何とかそれらしい色）、二藍にリンドウ（青が強すぎて、二藍というには無理がありそうだが、ご容赦を）。写真左は、榊は使わず緑のアンスリュームの葉をプラスしている。

かさねの色目の花あそび　No.16

【色目】胡桃色　＜表：香　　裏：青＞



表の「香」は、色相の広い香色の中でも灰みの茶褐色で、胡桃染の色にちなんだ色目とのこと。胡桃染は、樹皮や果皮を使って染める。昔の人は胡桃も紙や布を染めるのに使っていたんだ！　私たちは自然からなんと多くの恩恵をいただきながら、長い歴史を綴っているのだろう。地球と生命の歴史に比べれば、ほんの一瞬の時間しか経っていない歴史だけど。

花材の香色は、ほとんど枯れてしまった石化柳と、ほとんど枯れかけている雲龍柳。青々とした葉の新芽が出ている。足元の別の青々とした葉っぱはアルストロメリアの葉。